

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		空の鳥幼児園		公表日		年 月 日	
環境・体制整備	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	1	・部屋の模様替えをするなどして、空間をうまく使っているようにしている。 ・玩具棚や着替えロッカーの配置を工夫しながら、子どもたちが過ごしやすい部屋のレイアウト作りを意識している	こどものタイプと人数によって、環境設定を柔軟に行っていくことも必要である	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1	・活動や子どもの姿に合わせ、クラスを超えて職員配置を調整しながら行っている ・毎日、その日の療育ができるよう職員配置を整えていることは変わらない。	クラス間の連携をよりスムーズに行えるようにするための工夫が必要		
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	11	1	・部屋の使い方を見直し、改善した事で見通しが良くなった。席変更も子どもの状況などでその都度して行きたいと思う ・インクルーシブ環境や大人数での構造化をみんなで考えている	テラス、舞台、園庭がバギーを使用している子どもにとっては自由に入出力ができない。スロープの常設も考える		
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11	0	・1人でじっくり遊びみたい子どもと動きたい子ども、それぞれの空間を確保できるように、棚で仕切ったり、室内と廊下に分かれて過ごすようにしている ・子どもたちが心地よく過ごせる雰囲気作りを含め、掃除や消毒をこまめにしている。			
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	12	0	・子どもの様子に合わせて、職員間で連携しながら過ごし方を工夫している ・子どもが安心できたり落ち着ける居場所を必要に応じて大切にしている。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10	0	・会議を持ちながら話し合っている。 ・職員によって意識の違いが大きいので、気がついた職員が声を上げることで、同じ方向に向かっていっている	業務改善を進めていく意識は高まってきているが、実現していくための具体的な取り組みを進めていく	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15	2			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	16	1	・必要時は話をできる職員の関係性が築けているところはあると思う。 ・会議や立ち話で、その都度、必要な意見交換をしている。している？	職員が話をする時間が十分にとれていないところがある。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	13	2	第三者委員会を開催し、委員の方からアドバイスをいただいている	今年度内に児童発達支援センターの外部評価を受ける	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	19	1			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	17	0			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	19	0	・話し合いの場を持てるようにする以外にも普段からクラス担任間で話できていと思う。 ・常にクラス会議で個々のケースを話し合っている。	効率よくできるよう工夫が必要	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	19	0	・話し合いの場を多く持つ事で共通認識を行っている。 ・ケース検討や会議を大切にすすめている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	17	0		・計画書を作成することに必死になってその後の共有が疎かになっていたり、日々の療育に追われて支援内容に取り組めない時もあるが、1日の中でもこの時間は取り組むようにする。と決めた一人一人が意識して関わることが必要だと思う。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	15	0	・集団生活の中での支援であるため、標準化された評価ツールは使いにくい。行動観察を主とするインフォーマルなツールに基づいて評価や記録を行っている		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	19	0			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	14	1	・チームで日々考えているが、更にチーム関係を深めていければと考える。		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	17	0		・活動は変化をつけていると思うが、室内遊びへの工夫はもっと必要だと感じる。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	18	0	・子どもの姿に合わせて、個別や集団での活動を段階付けながら計画している ・野の百合保育園と連携している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	13	2	・常に対面での打ち合わせを行うことは難しいが、活動に参加する職員に必要な事項が共有できるように工夫している	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	1	・勤務時間の違いで難しさはあるが、空いた時間を使いながら振り返りや話し合いができるようには意識している ・何かあれば共有できるようにしている。話し合うと言うよりは話す時間を持つようにはしている。	話し合う時間を意識してつくっていくようにする
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10	1		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10	1		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	18	0		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	18	0	連携を意識して、必要なケースではカンファレンスを行うようにしている	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	17	0	単独通園施設であるために併行利用者はいないが、幼稚園や保育所に転園するケースでは、保育所等訪問支援事業を行い連携をとっている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	20	0	引継書を作成し各学校に渡している。 就学後は学校に訪問し情報の共有を行っている	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	12	1	南部自立支援協議会児童部会において、様々な研修の機会を設けている	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	20	0	年に2回は、外部講師を招き研修会を行っている。 外部研修は研修計画に則り、参加するようにしている	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	18	0		
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	14	2	併設している野の百合保育園の子どもたちとは日常的に関りをもつことができている	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	20	0	・園でも悩んでいることを正直に話して、保護者と一緒に考える姿勢を持つようにはしています。今年は親子参観の方も多く、例年より、保護者の方とその部屋話しているように思っております。 ・日々のお顔を通じて保護者との連携をとりながら、必要に応じて電話でやりとりをしながら子どもの姿について共に考えている	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10	2	保護者会の取組で研修や情報提供の場を設けている		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	15	1	契約説明会において説明を行っている		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	18	0	懇談会、家庭訪問を行い丁寧に時間をとっている		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	20	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	20	0	・子どもの姿に合わせてその都度必要に応じて保護者とやりとりしている ・日々、お電話や紙面や面談等でその都度必要に応じて行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	18	0	・保護者会や卒園児保護者会、家族会等の企画やイベントで保護者間や兄弟間の交流が行われている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	20	0	・職員間で共有できるように記録に残し、主任や園長と相談し早急に対応するよう心がけている	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	20	0	・HPは定期的に更新し、各クラスの活動報告を行っている ・ハグモを活用し情報提供を行っている	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	19	0		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	18	0	・必要であれば、電話対応をし、子どもも保護者も、わたしたちも安心して関わっていけるようにと情報交換を行いすすめている。 ・言葉でのやりとりだけでなく、写真カードなどの視覚支援も用いながら工夫している	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	15	0	地域の方と一緒に公園の清掃活動に参加している	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	19	0	・定例会などで行い、その都度振り返り、改善点を話し合っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	17	0		BCPは策定できているが、それに基づく訓練は未だ実施できていない。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	19	0	・定期的に振り返りの時期を設けている。クラスではその時期の他、遠足時などに再度確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	20	0		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	19	0		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	16	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	19	0	・定例会で取り上げたり、クラス会議でも共有している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	20	0		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	19	0		